

上州武尊山

1985年 2月1日~2日

ひとりぼっち

メンバー: 橋本

2月1日 晴れのち風雪
朝の急行で上野発, 11:30に宝台樹スキー場に着く。上ノ原山、家に登山計画書を提出し、玄関先で身仕度して、快晴で暖かな上ノ原高原へ出発する。林道にも何のトレースもなく、ラッセルがはじまる。林道のあるところでもスキーが25-30cm沈む。斜度が出てきて、雪が増えてきたらどうなることか、先を急がせながらも、ポカポカ陽気で手袋をして急ぐ。名倉川の源流のうす宝台樹尾根に終るもの、結局奈倉の頭にてまるだけ直接的に到達できる決を遊んで登る。沢筋にも深い雪があり、降雪後何日が経過している筈だが、さっぱりしてない。この沈み方が激しい。この上ノ原を直接乗り越えようとして、雪の下空洞に落ちこみ、時間のたつ割に、標高があがらない。西日を浴びながら奈倉の頭への広い斜面を登る。遊難小屋付近まで行くには時間不足と判断して、奈倉の頭にツェルトを張る。夕暮れから風が強まり、小雪となる。積雪が軟かすぎて、サイトの床がかたまる。快適なサイトにはならないが、落日と競争で、夕飯の準備をした。寒い!
タイム: 上ノ原高原林道(1050m): 12:00 → 林道終点(1280m) 14:30 → 奈倉の頭(1690m) 17:00
スーパーストニ結び、靴ズレの手当(ツェルト油) テーピングテープで補修していると就寝22:00となる。

2月2日 風雪ガス、のち晴れ
風雪でツェルトが半は埋り、この上寒か、こので、余り寝山なかつたが、ともかく朝食を済ませたおこしに起きる。この口を点火するが、余りの低温のため火力が弱く、水を作るのに時間が掛かる。風雪と天気予報(北高南低)とを兼ね合山せて、さらには昨日のラッセルの状態から、山を越えてオリンピアに出ることは断念する。スーパーストニの大きな結びも大きく気勢をとく。ことによると今回も敗退かと思いが重い。ともかくピストン体制で沖武尊だけでも何とかしたいと、荷のバックギンを変更し、天候の良化を待つが、一向に変化しないので、手小屋決まめることにして、8:00出発とする。遊難小屋までは、ラッセルはあるものの容易に到着する。小屋は埋れもないが、入口付近の積雪を除くには相当時間が必要そうだった。遊難小屋の上で、左側の手小屋沢の沢筋に入る。ラッセルは膝迄くまど溶くなる。たった一人の山行だから、「自分の前に道はない、自分の後に道はできる」という言葉通りの気分を、苦勞が多いとはいえ、気分の良いと、この上はいい。夏道の尾根と標高をくらべながら、スキーで下降するとき具合のよいようにということを念頭において、樹林のうすい中斜面を選び、ひたすら登りを続ける。こうして滑りよるところを登ると、登りついたらこのころは、沖武尊北尾根(または手小屋沢右岸尾根)のp1984の北西の角である。地図で検討してみると、p1984より西へ手小屋沢へ下る幅広い小尾根を登ったことになる。

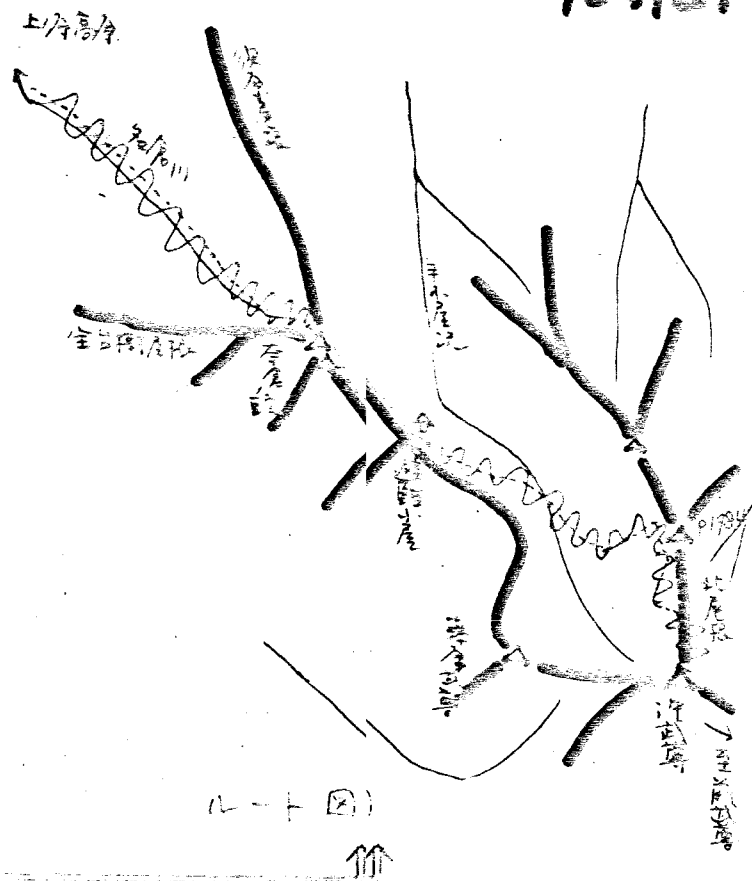
p1984の西面を迂回して沖武尊との間のコルに出る。このころどこを登るか、これが決まらなかつた。どこも樹林が濃い上、斜度がある。上ノ原にp1984までで敗退したとき、北尾根上部は登・降の良いコースと見て、このと通過することに決めておいたが、このに到達するルートはどうするか、北尾根下部は急だし、樹林が多い。地図上では、沖武尊へつき上げる沢の源頭をルートに選ぶと良さそうに見える。だからこの手を遊んだが、結局は最悪の雪の状況だった。下降ルートには選ぶべきではないだろう。北尾根西面をトラバースして極沢に入った。膝までのラッセルの上は、50cm厚の積雪が下層となじんでいらいしく層状に滑り落ちるので、殆んど三輪登山ができてない。小枝に掴まりながら階段登山するしかない。スキーをはずすと50cm以上もぐり、しばらくで70cm以上の雪の壁ができ、もう進めな...。四苦八苦して北尾根中部に度々三輪登山が可能になった。またも敗退かと思えば諦めたが、もう少し上部までと、登り続けると、頂上が見えてきたとうとう到着した。ガスで何も見えな...。下る方向をコニパスで確認してから三輪をはずす。強風で滑り付け三輪が無の上り苦勞する。下降は北尾根沿いに簡単に下るが下部は予想通り樹林が濃い。大沢に下降するにせよ遊けたくて左よりに進むと、最悪の樹林帯である。たんとかコルに出て、登山コースを確認しながら気味よく滑降する。雪は溶けて、かなり厚い。表面の昨夜の雪は解いたもののスキーはこの下の層まで埋れ、こぼれ、もう少し技

術があれば、舞うように華麗に滑降できる
 だろうなあと思いつながり進むと、避難小屋
 付近までもう^{早く}着いてしまう。風も弱く、風
 塵もこの辺りでは弱く、日たまりで昼食と
 する。気分最高！このあとがコワイとは知
 らないから！

避難小屋から本倉の頭まで、登るとまに30
 分程度だったから、簡単に下れる(?)と思っ
 てスキーのまゝ進んだ。小ピークがいくつか
 あるのは判っていたから、そこは階段登行
 で乗り越えれば、あとはスキーで滑らせればと
 思えば40分！地図で検討すれば下りでは
 なく強しと登りたので、本倉の頭が1690m
 の小屋の1650mだから決して下りではな
 い。即ち倍以上の時間をかけて、汗まみれで突
 破したのが痛く困った。この途中2日間
 で初めて出会う登山者、うっせりと感
 謝する。この道に出会ったのは野ウサギ
 1~2匹(この山域では真白に着色している)だけ。
 急いで撥水して、名倉川へ下降する。バス降
 まで1h45minしかないが、間に合うかどうか。
 西日を背けて雪を履き、大斜倉を、転倒しな
 いことを第一義と考えて滑降すると、短時
 間で、名倉川の沢筋に入る。トレスと洋
 に下り降り滑るうらに、林道に入る。林道の緩
 急斜面も、トレス内に片足を落とし、他方を
 新しい雪の上において、2匹ウサギを急ぐ。
 バスに間に合うらしい。

スケジュール: 本倉の頭(1690m) 8:00 → 避難小屋(1650m)
 8:30 → 北ノ沢(1970m) 北倉(1950m) 10:00 → 沢筋(1913m)
 12:00/12:30 → 避難小屋 13:00/13:30 → 本倉の頭 14:00/14:45
 → 上ノ倉高倉 林道 14:30

苦しいが充実した山行 だった。



ルート図

